

近代医学先駆地で広がる——医のネットワーク

先進の医学×連携の医療

熊本 医の新時代

プラス

熊本は、近代医学の先駆地として知られる。熊本大学医学部のルーツは、1756年設立の藩校まで遡る。明治維新後は、熊本医学校開校以来、北里柴三郎をはじめ、優れた人材を輩出してきた。時代を超えて受け継がれてきた医の志は、現在の地域医療にも表れる。熊本大学病院と熊本県医師会を中心に連携が進み、県民に高度な医療を提供している。2022年新春に当たり、熊本大学の小川久雄学長と熊本大学病院の馬場秀夫病院長、そして熊本県医師会の福田稠会長による鼎談の機会を設け、朝日新聞熊本総局長の島田耕作が、熊本の医学の歴史や地域医療について聞いた。

近代日本医学の父を生んだ先駆地 世紀を超え連綿と続く研究の歴史

——熊本は、日本細菌学の父と言われる北里柴三郎や日本女性初の医学博士・宇良田唯などを輩出した地です。熊本の近代医学史についてお話しただけですか。

小川 熊本は全国有数の医学の先駆地でした。江戸時代に、日本初の公立の医学学校・再春館が創設された地としても知られます。再春館から数えると250年以上の歴史があります。

馬場 再春館を創設したのは、細川第六代の重賢公です。創設は宝暦6年1756年で、以来、脈々と受け継がれる伝統と歴史の中で、多くの偉人を輩出してきました。

福田 再春館は、明治3年・

1870年、明治維新で廃止となりますが、代わりに創られたのが、熊本医学学校。熊本大学医学部の前身です。校長には、長崎養生所の後身・精得館から吉雄圭齋を招聘しました。さらに1871年、吉雄圭齋の推薦で、長崎医学学校からオランダ人軍医のマンズフェルトを招きます。マンズフェルトは医学学校や病院で教鞭を執



宝暦	再春館 宝暦6年9月(1756年)
明治	(官立) 医学校兼病院 明治4年7月(1871年)
	(私立) 熊本医学校 明治29年2月(1896年)
大正	(私立) 熊本医学専門学校 明治37年2月(1904年)
	(県立) 熊本医学専門学校 大正10年4月(1921年)
昭和	(県立) 熊本医科大学 大正11年5月(1922年)
	(官立) 熊本医科大学 昭和4年5月(1929年)
平成	熊本大学 昭和24年5月(1949年)

先生など日本のトップレベルの研究者を招聘し、基礎研究を活性化させました。

福田 林先生は怖い先生でしたが(笑)、ずいぶん可愛がっていただきました。先生のご尽力もあって、熊本大学医学部は免疫学研究のメッカと呼ばれ、全国でも中心的な役割を果たしていききました。

小川 発生医学研究所の基をつくった山村研一先生を呼んだのも林先生です。先見の明があり、思い切った人事をされた。こうした取り組みが財産となって、現在の熊本大学医学部があります。

全国に知られる先進的熊本モデル 熊本市を中心にする地域医療

——熊本県の医療の特徴について教えてください。

小川 熊本県は、県内に医学部のある大学が1つ、大学病院が1つです。関連病院には、大学病院から多くの人材が派遣されていますので、しっかりとネットワークがあり、連携も取れています。そして、県医師会とのパイプも強い。地域医療を行う上で理想的な環境にあると考えます。

福田 熊本大学病院を中心に、基幹病院が先端的な医療を提供する。一般の民間医療機関は、できるだけ温か



肥後医育ミュージアム
常に時代に先駆けてきた肥後医育の伝統と歴史を豊富な資料で紹介

い医療サービスを提供しようということ、医師会も連携して取り組んでいます。そうした役割分担もできているのではないのでしょうか。

馬場 多くの医療の領域で、先進的な取り組みが実践されています。熊本モデルと呼ばれ、学会をはじめさまざまな機会、熊本が良い例として取り上げられています。救急医療も循環器系の医療も、がんの領域でもそうです。

小川 熊本モデルという言葉は、医療の世界では全国的に有名です。もともと小児科が有名でした。医療機関が当番制を敷いて、休日などの診療にも対応します。まとまりが良いからこそ、できることだと思います。また、先進的な救急医療体制が取られていることも熊本県の特徴です。医療をよく知っている人など、晩年は熊本で暮らしたいという人も多くいます。

——地理的なことなど、地域医療を展開する上でどうですか。

福田 県庁所在地の熊本市は地政学的に県の真ん中に位置しています。

特定機能病院の熊本大学病院があり、基幹病院が集中しています。しかも熊本県が1時間半構想というプロジェクトを進めていて、県内各地から熊本市までほぼ1時間半以内で来られるような道路網が構築されています。アクセスという意味でも恵まれます。医療的に極めてありがたい。また、天草地区はドクターヘリを使ったり、人吉地区には八代市を中継基地として位置づけたりして、カバーしています。離島や遠隔地はありますが、他県と比べても地域医療はうまく機能していると思います。

県の地域医療等情報共有システム くまもとメディカルネットワーク

——熊本県独自でつくる医療や介護の情報ネットワークがありますか。

馬場 くまもとメディカルネットワークといえます。熊本県、熊本県医師会、熊本大学が連携して取り組んでいる情報共有システムです。ネットワークに参加している患者さんの情報を、熊本県内の医療機関や介護関連施設などで共有して、医療や介護などのサービスに生かします。災害時などに患者さんのカルテがなくても、ネットワークから情報を取得することができます。

小川 県南部を中心とした令和2年の熊本豪雨で、何人も患者さんのカルテが流されてしまいました。薬手帳を持っていなかったり、紛失したりしている人もいました。このとき、くまもとメディカルネットワークによる情報で、すぐに患者さんの薬の処方ができるようになりました。

福田 コロナ禍でも、存在価値が高まっています。新型コロナウイルス感染症の軽症患者の中には、宿泊療養施設を利用していただく方もおられます。

小川 こうした取り組みは、一部の機関や一定の地域だけで取り組んでも十分に機能しませんが、県全体で取り組んでいるからこそ、多くの患者さんに役立てられるんです。

馬場 一方で、残念ながら、まだ地域や医療機関による格差があることも事実です。情報共有によるメリットの大きさを考えていただき、協力いただけるとうれしいです。行政、医師会、大学とも、目指すところは、患者さんのためになりたい、ということだと思います。今後も積極的に取り組みを進めてまいります。



くまもとメディカルネットワーク
熊本県独自でつくる地域医療情報等のネットワーク

馬場 地理的なことを言えば、熊本県は九州の真ん中にあります。九州各県との連携が取りやすく、アジアの玄関口にも当たります。今後、熊本の医療が脈々と受け継いできた流れや先進の医療を世界に向けて発信していく上で恵まれていると考え

宿泊療養の担当医師は、日によって変わったりますので、カルテが作りにくい。そういうときにこのデータが役に立っています。

馬場 ある病院から違う病院に患者さんを紹介するときに、くまもとメディカルネットワークが機能します。患者さんの検査画像やデータ、あるいは手紙や返事もネットワークを使って送ることができます。医療機関が変わるたびに行われる検査などのオーバーラップ、つまり重複を避けることができます。安心安全な医療を、効率的に迅速に提供することが可能になります。

——どのくらいの患者さんがネットワークに参加しているのでしょうか。

福田 現在、約7万人が登録しています。全国有数のネットワークになりつつあります。他県でも同様の取り組みはあるようですが、うまく機能していないものもあります。熊本が成功しているのは、ネットワークに熊本大学が入ったおかげです。大学病院の下に地域の基幹病院があつて、意志の疎通がしやすい。熊本の医療の連携力が発揮されていると言えます。

小川 こうした取り組みは、一部の機関や一定の地域だけで取り組んでも十分に機能しませんが、県全体で取り組んでいるからこそ、多くの患者さんに役立てられるんです。

馬場 一方で、残念ながら、まだ地域や医療機関による格差があることも事実です。情報共有によるメリットの大きさを考えていただき、協力いただけるとうれしいです。行政、医師会、大学とも、目指すところは、患者さんのためになりたい、ということだと思います。今後も積極的に取り組みを進めてまいります。

——くまもとメディカルネットワークが隔々にまで広がっていくといいですね。患者さんのためになる医療が、さらに前進することを期待します。ありがとうございます。